

コスト軽減を実現 養殖魚の“新顔”「アカバナ」

●水産経済新聞記事 2014年5月12日

み な ど 幸 研 研 研 (日 報) 2014年(平成26年)5月12日 月曜日 (4)



この魚といわれる「アカバナ」



アカバナは産卵期の魚

コスト低減を実現

養殖魚の“新顔”「アカバナ」

アプロジャパンが餌提供

【大塚】今春、新たにマーケットに登場する養殖魚「アカバナ」。おおよそ8%以上育った大型カンパチのことで、種魚用サプリメントメーカーのアプロジャパン（大塚市、白石俊訓社長）の餌を使って養殖業者の小浜水産（鹿児島県水市）が育てる。①餌を抑制する効果があるという。現在、養殖に使う養殖カンパチは3%が主体。これを8%以上の「アカバナ」まで育てれば、脂のりが抜群なのに身が締まり、煮てもおいしいカンパチの欠点を補った新顔の養殖魚。新たなマーケット創出につながるという。養殖コスト低減まで実現する魚として注目されている。

スーパー10
生餌に10%

従来大型サイズまで成長するカンパチは、餌の抑制効果が低く、生餌に10%以上使われていた。アプロジャパンの餌を使うことで、生餌の抑制効果が上がり、生餌の割合を10%以下に抑えられるという。

カンパチと
全く異なる

「アカバナ」は、カンパチと全く異なる特徴がある。生餌の割合を10%以下に抑えられるという。

コスト半減
のケースも

「アカバナ」は、コスト半減のケースもあるという。

小浜水産が高技術で養殖

出荷前の 目方減らない利点も

アプロジャパンの餌を使うことで、生餌の抑制効果が上がり、生餌の割合を10%以下に抑えられるという。また、目方減らないという利点もある。小浜水産は、高技術で養殖しているという。

アプロジャパンの餌を使うことで、生餌の抑制効果が上がり、生餌の割合を10%以下に抑えられるという。また、目方減らないという利点もある。小浜水産は、高技術で養殖しているという。

進化するモイスト 生産者フォロー惜しまず



アプロ 白石 俊訓 社長

モイストは、生産者フォロー惜しまず進化しているという。

モイストは、生産者フォロー惜しまず進化しているという。

株式会社 アプロジャパン
本社 〒531-0077 大阪市北区大淀北1丁目1-17
(NBCアプロビル3F)
TEL 06-6450-1800 FAX 06-6450-0108
URL: http://www.applejp.com

給餌量減でも高成長、脂のり良く



「さし」が入ってうま味抜群



煮てもおいしい



スニートの代わりに